

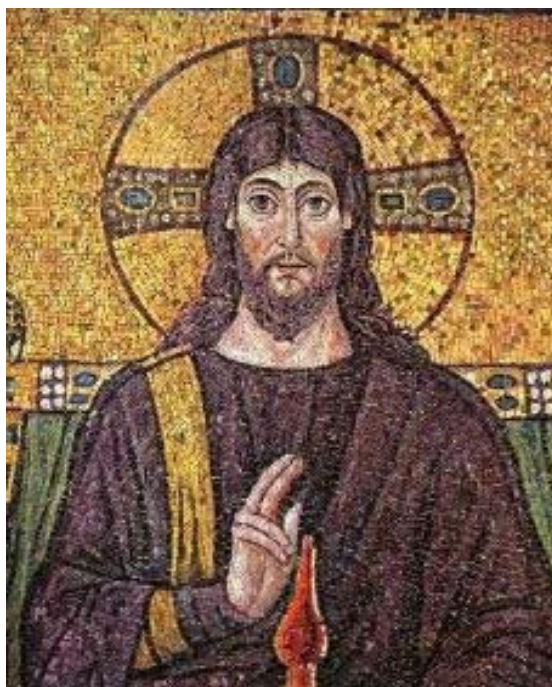


カトリック

三軒茶屋教会

おとずれ

2016年8月15日発行 第61巻 第7号



王であるキリスト号

『王』って何だろう

主任司祭 ミカエル 湯澤民夫 神父

いよいよ、この王であるキリストの祭日をもって教会の暦も年末である。私たちは、一度にいくつもの暦を使っている。普通使っているのは、1月1日を正月とする太陽暦である。最近は、さすがにあまり使わなくなったが、太陰暦がある。旧正月などと使う。この他に、4月1日に始まる、学校などの暦である。そして、教会の暦。この暦は、待降節の第一の主日の前晩から始まる。教会の暦の終わりから、世の終わりを連想し、11月が死者の月になっているし、最後の日曜日は、王であるキリストの祭日、そして終末週間が続く。これは、世の終わりを「待つ」から、主の降誕を「待つ」へと繋がり、一年が一つの輪、サイクルになっている。

ところで、今年の王であるキリストの祭日の福音を分かち合っていて、不思議に思ったことがある。箇所は、『ルカによる福音書』のキリストの十字架の場面、二人の盗賊の内の一人在、イエス様に声をかける。聖書と典礼は、共同訳を用いているが、「あなたが御国においてになる時には、私を思い出してください」となっている。『聖書と典礼』の脚注にもあるが、フランシスコ会訳の新しい版では、「あなたが御国に行かれたら」と同じ意味で訳しているが、古い版では、「あなたが王権をもって来られるときには」となっている。

「おいでになる」「行かれる」は、向こうへ行くことで、「来られる」とは、逆の方向である。だから、「御国へ」と場所的移動を意味している。来るは、こちらが御国ではないから、支配の意味を取って、「支配の内に」「王権をもって」と場所的意味になる。これは、この動詞が「行き」とも「来る」とも訳せる両方の意味があること、また、ギリシア語の前置詞の意味の違いによる。

学者たちが訳したのであるから、共同訳がより良いのであろう。しかし、王であるキリストの祭日には、どちらの訳がよいかとなると、私は、フランシスコ会訳かなと思う。それは、この祭日が、世の終わりの完成を祝うからである。世の終わりは、「キリストが完成された神の支配（御国）の内に再び来られるとき」「キリストの再臨の時」だからである。これが、十字架の上で無力に何もできなくて死んでいく者の言葉だから意味がある。イエスは、何もできないで死んでいく。救い、そして、世の終わりの完成は、神から来ることで、人間の力では引き寄せられないからである。

ところで、30年以上前の王であるキリストの祭日の数日後で、主任司祭から一枚の葉書もらった。お前の教会の助任司祭は、この民主主義の時代に、「王」なんて言っている。よく教育しろ。というものである。その頃は、笑い飛ばし、その後、神学院の授業でも利用させてもらったが、最近、それでも「王」という言葉を使う以上、何かあるのではないかと、思うようになった。

去る、9月25日カトリック中央協議会 宮越俊光氏をお招きし、典礼研修会が行われました。昨年11月29日から「ローマ・ミサ典礼書の総則」でミサの典礼が一部変更されてほぼ一年が経過しました。再度ミサ典礼の詳細について学ぶ、機会となりました。以下の記事は、宮越俊光氏よりの投稿された文章です。

カトリック中央協議会 宮越俊光

私たちは記念してささげます～「総則」に基づく行動的参加をめざして

新しい「ミサ総則」に基づく変更の実施

昨年11月29日から、新しい「ローマ・ミサ典礼書の総則」に基づいてミサの典礼が一部変更されました。実施からほぼ1年が過ぎ、三軒茶屋教会でもかなり定着したことと思います。この変更は、ミサをただ規則どおりにささげて画一化しようとするものではなく、世界共通のミサの規則を守りながらも、ミサに集う一人ひとりが行動的に参加する意識を高めることを目指しています。また、変更箇所に関する学びを通して、各小教区共同体がこれまでのミサを見直す機会とすることや、司式者と会衆が、より美しく味わい深くミサをささげるために、所作や姿勢などもいっそう留意することが期待されています。

日本語『ミサ典礼書』の改訂作業

現在、私たちが使っている日本語の『ミサ典礼書』は1978年に発行されました。これは元となるラテン語版の完全な翻訳ではなかったため暫定版でしたが、この暫定版を完成させるため、2000年に司教団のもとに『ミサ典礼書』改訂委員会が設置され、2002年に発表された新しいラテン語版に基づいて現在も作業が続けられています。昨年11月から実施された変更箇所は、この改訂作業の一環です。改訂作業は、①現在の式文の見直しと未翻訳部分の翻訳、②ラテン語版の「総則」の翻訳と日本でのこれまでの適応の見直し、③ミサの式次第やミサの賛歌（ミサ曲）の新しい旋律の準備、④「司式者用手引き」の準備、などを中心に行われています。

典礼のビフォー・アフター

ミサをはじめとする現在の典礼は、第2バチカン公会議による典礼刷新の実りであり、公会議の前と後では大きな違いが見られます。たとえば、司祭が司式する典礼に「あずかる」ことよりも、典礼を「ともにささげる」とい

う側面が強調されました。また、ラテン語の祈願や聖歌を国語に翻訳する可能性が開かれました。かつて内陣奥の壁に設置されていた祭壇は壁から離されて会衆の近くに移され、司祭は会衆と対面して司式するようになりました。さらに、地方教会の文化や伝統を所作・姿勢・音楽・祭器具などに生かす可能性も示されました。こうした刷新を支える基本的な方針に「行動的参加」があります。

行動的参加とは

第2バチカン公会議の『典礼憲章』は次のように述べています。「母なる教会は、すべての信者が、十全に、意識的かつ行動的に典礼祭儀に参加するよう導かれることを望んでいる。……全会衆によるこの十全かつ行動的な参加は、聖なる典礼を刷新し促進するにあたって、もっとも留意すべきことである」(14条)。このように行動的参加は、第2バチカン公会議の典礼刷新の中心となる方針です。会衆一人ひとりが、洗礼によって共通の祭司職をゆだねられた者として、典礼に積極的・意識的に参加することが求められています。もちろん、ここでいう「行動的」とは、体を動かしたり聖歌を歌ったりする外的な参加だけを指しているわけではありません。典礼の流れに沿って組み込まれている沈黙による内的な参加も含まれています。

ミサにおける行動的参加

それでは、ミサの中で会衆が行動的に参加するために留意したらよいと思われる点をいくつか挙げておきましょう。

【集まる】 現在のミサの式次第の典礼注記は「会衆が集まると」という言葉から始まります。つまり、ミサが始まるためには会衆が集まっていることが必要なのです。神からの招きに応え、主の食卓を囲んでともに集うことがミサへの参加の始まりといえるでしょう。

【答える】 ミサでは、会衆による「アーメン」「また司祭とともに」「キリストに賛美」など、会衆の応答が重要な役割をもっています。とくにことばの典礼では、今日のミサ告げられる救いのことばを通して語りかける神に、答唱詩編・アレルヤ唱・信仰宣言・共同祈願・沈黙の祈りなどを通して答えます。会衆による生き生きとした応答は、ミサそのものを豊かにするため不可欠です。

【賛美し感謝する】 神への賛美と感謝は、ミサに参加する者の心構えの基本といえるでしょう。とりわけ、ミサの奉献文はミサの中心かつ頂点となる賛美と感謝の祈りです。奉献文では会衆が実際に唱える部分は少ないものの、

共同体を代表して司祭が唱える一つ一つの言葉に耳を傾け、心を合わせて参加することが大切です。そして結びに力強く「アーメン」と答え、賛美と感謝の祈りに対する賛同を示します。

【記念する】最後の晩餐のときの「わたしの記念としてこのように行いなさい」（一コリント 11・24, 25）というイエスのことばに従い、教会はイエスの死と復活（過越）をミサで記念します。救いの出来事の頂点となる主の過越を、教会は共通の記憶として使徒たちから受け継いで保ち、私たちはミサのたびごとにそれを思い起こし、パウロが言うように「主が来られるときまで、主の死を告げ知らせる」（一コリント 11・26）のです。

【交わる】聖体拝領と訳された言葉「コムニオ」には「交わり」「共有」などの意味があります。初代教会の信者たちがしたように一つのパンを裂いて分かち合う（使徒言行録 2・41-47）ことによって、キリストとの一致・交わりを深めると同時に、同じキリストのからだを分かち合った者として、相互の一致・交わりを深く味わいます。

【派遣される】ミサの結びに、司祭は「行きましょう、主の平和のうちに」と派遣を宣言します。ミサを通して神のことばとキリストのからだに養われる私たちは、神の祝福のうちに派遣され、与えられた使命（ミッション）をそれぞれの生活の場で果たし、また次のミサのために一つに集まるのです。

結びに

『ミサ典礼書』の改訂作業は現在も継続中のため、今後も部分的な変更を実施する可能性があります。どのような変更が実施されるとしても、私たちがミサの典礼を「よく理解して、意識的に、敬虔に、行動的に聖なる行為に参加する」（『典礼憲章』48条）ことは変わることはありません。ミサのために集まる一人ひとりが、自分にできる奉仕の務めを果たし合うことを通して、ミサへの参加の意識を高めていくことが大切ではないでしょうか。

人のうごき

帰 天

主よ、永遠の安息をお与えください

2016年9月25日

マリア・マキシミリアナ 永田 ひとみ

⑩ブロック

2016年10月7日

アンドレア 長尾 良一

⑩ブロック

2016年10月9日

マリア・モニカ 長尾 りつ子

⑩ブロック

待降節・クリスマス行事と年末年始のミサ時間案内

待降節

11月27日(日) 待降節黙想会当日のミサ時間午前8時・9時半

指導司祭フランシスコ会清永俊一神父

クリスマス

12月24日(土) 午後6時半 日曜学校「聖劇」

午後7時 子供と家族のミサ

午後9時 夜半のミサ

午後11時 青年と共に捧げるミサ

12月25日(日) 午前8時半 主の降誕(日中のミサ)

午前10時半 主の降誕(日中のミサ)

12月31日(土) 午後6時半 神の母聖マリアの祝日ミサ

1月 1日(日) 午前0時 世界平和の日ミサ

午前8時半 同上

午前10時半 同上

1月 8日(日) 午前8時半・午前10時半 ご公現の祝日ミサ

あ と が き

- ◇「王であるキリスト号」です。教会暦の最終日となりました。今年は、早々とインフルエンザが流行り始めました。皆様お体には充分ご留意ください。
- ◇今号の「おとずれ」の湯澤神父様の巻頭言は、「王」って何だろう と題しての記事を掲載しております。「王であるキリスト号」に相応しい記事です。
- ◇9月25日(日)の典礼研修会でカトリック中央協議会・宮越俊光氏がが昨年改定された「ローマ・ミサ典礼書の総則」について、当日お話された講話の詳細を今号に投稿して頂きました。
- ◇次号「クリスマス号」は12月25日発行です。原稿締切は12月18日となります。



『おとずれ』第61巻 第7号 2016(平成28年)11月20日発行
発 行 カトリック三軒茶屋教会
編集・印刷 カトリック三軒茶屋教会・広報委員会
主任司祭：ミカエル 湯澤 民 夫
〒154-0024 世田谷区三軒茶屋2-51-32
TEL 3421-1605 FAX 3421-9788
<http://home.f05.itscom.net/sancha/index.htm>
sancha-catholic0629@leaf.ocn.ne.jp

待降節 黙想会

「神に向かう私 私とは何者か？」

指導司祭 フランシスコ会 清永俊一 神父

平成28年11月27日(日)

9:30~10:30 主日ミサ
10:40~11:30 第一講話
11:30~12:00 黙想※
12:00~12:45 昼食
12:45~13:30 第二講話
13:30~ ゆるしの秘跡



この日のミサは、8:00~ も執り
行われます。
※黙想の時間は、主の御前である
聖堂において、心静かに祈り、
神の声に耳を傾けましょう。



カトリック三軒茶屋教会